

- 問1 風力、太陽光、地熱など、自然界に存在し、一度利用しても比較的短期間に再生が可能で、繰り返し利用できるエネルギーを総称して何といいますか。 (2021年 秋田県公立入試 類似)
1. 化石燃料                      2. 核燃料                      3. 再生可能エネルギー                      4. 枯渇性エネルギー
- 問2 循環型社会の形成に向けた取り組みとして、多くの自治体では「生ごみ3キリ運動」が推進されています。この運動が指し示す「使いきり」「食べきり」「水きり」の具体的な内容として正しいものはどれですか。 (2024年 長野県公立入試 類似)
1. 不要な製品を最後まで使いきり、備蓄した食料を定期的に食べきり、雨水を貯めて生活用水に使いきる。                      2. ノートの余白をすべて使いきり、給食を残さず食べきり、使用済みの油を固めて燃えるごみとして出さる。                      3. 洗剤を適量まで使いきり、賞味期限内の食品をすべて食べきり、プラスチック容器を洗って水分を拭ききる。                      4. 食材を計画的に購入して料理に使いきり、作った料理を残さず食べきり、ごみとして出す前に水分を絞る。
- 問3 将来的にトラック運転手が20万人以上不足するという予測や、輸送1トンあたりの二酸化炭素排出量がトラックに比べて鉄道や船舶の方が大幅に少ないという現状を踏まえ、貨物輸送の手段を転換する取り組みが行われています。この取り組みの名称として正しいものを選びなさい。 (2026年 山口県公立入試 類似)
1. スマートグリッド                      2. モーダルシフト                      3. カーボンオフセット                      4. サプライチェーン
- 問4 循環型社会を形成するための取り組みである「3R（スリーアール）」のうち、製品の製造や使用の段階で、そもそも廃棄物となるものを減らす「発生抑制」にあたる取り組みはどれですか。 (2024年 山形県公立入試 類似)
1. リデュース                      2. リユース                      3. リプレース                      4. リサイクル
- 問5 あるコーヒー店での聞き取り調査において、「当店では発展途上国で生産され、特定の認証を受けたコーヒー豆を積極的に取り扱っています」という回答がありました。このような取り組みが行われる背景にある、国際協力の考え方として最も適切なものはどれですか。 (2019年 群馬県公立入試 類似)
1. 発展途上国へ食糧や医薬品を無償で提供し、一時的な飢餓や病気を防ぐ。                      2. 日本の優れた工業製品を現地へ輸出し、発展途上国の市場を独占する。                      3. 現地の生産者に対して適正な対価を支払い、継続的な取引を通じて生活の安定を図る。                      4. 発展途上国の製品をできるだけ安く買い取り、日本の消費者の利益を最大化する。
- 問6 発展途上国の経済開発や福祉の向上のために、政府や政府関係機関によって行われる援助を政府開発援助（ODA）といいます。この援助のうち、食料や医療などの支援を行う無償資金協力や、専門家の派遣・研修生の受け入れなどを通じて知識や技術を伝える協力を総称して何と呼びますか。 (2024年 神奈川県公立入試 類似)
1. 政府貸付                      2. 直接投資                      3. 贈与                      4. 有償資金協力
- 問7 大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会から脱却するために制定された「循環型社会形成推進基本法」に関連して、環境負荷を減らすための具体的な活動として「リサイクル」に該当するものはどれですか。 (2014年 和歌山県公立入試 類似)
1. 買い物の際にマイバッグを持参し、レジ袋の受け取りを辞退する。                      2. 中古品店やフリマアプリを利用して、不要になった家具を他人に譲る。                      3. 回収されたペットボトルを細かく砕いて繊維にし、衣類を製造する。                      4. 詰め替え用パックの商品を選択し、プラスチック容器の廃棄量を抑える。
- 問8 国際社会において、北半球に多く分布する経済的に豊かな先進工業国と、南半球に多く分布する開発途上にある国々との間に生じている、所得や生活水準の深刻な経済格差のことを何と呼びますか。 (2024年 北海道公立入試 類似)
1. 持続可能な開発                      2. 南北問題                      3. モノカルチャー経済                      4. 南南問題
- 問9 2015年に採択された、気候変動に関する国際的な合意である「パリ協定」の内容として、最も適切な説明を選びなさい。 (2025年 大阪府公立入試 類似)
1. 発展途上国を含むすべての参加国が、温室効果ガスの削減目標を自ら作成し提出することを求めた。                      2. 水鳥の生息地として重要な湿地を保護するため、特定の地域を指定し保全を義務付けた。                      3. 先進国だけに温室効果ガスの削減義務を課し、発展途上国には義務を課さないとした。                      4. 国境を越えて移動する野生動植物の保護を目的とし、特定の種の取引を禁止した。
- 問10 地球温暖化対策の歴史において、先進工業国全体で温室効果ガスの排出量を1990年比で5.2パーセント削減することを目標とした合意の性質として、最も適切な説明はどれですか。 (2016年 岐阜県公立入試 類似)
1. 先進国に対してのみ、法的拘束力のある具体的な数値目標を義務づけた。                      2. 先進国だけでなく、開発途上国も含めたすべての国に削減目標を義務づけた。                      3. 環境権を基本的人権の一つとして位置づけ、各国に憲法改正を促した。                      4. 経済発展を優先するため、数値目標を持たない自主的な努力目標とした。
- 問11 持続可能な社会の実現を目指す上で、その背景にある考え方として最も適切な説明を選びなさい。 (2016年 愛媛県公立入試 類似)
1. 特定の国々が情報を独占し、情報の格差を広げることで国際的な競争力を高めようとする考え方。                      2. 将来の世代が受けるべき利益や自然環境を損なわないよう、現代の資源利用や環境負荷を調整しようとする考え方。                      3. 経済効率を最優先し、短期間で資源を使い切ることで急激な経済成長を達成しようとする考え方。                      4. 大量生産・大量消費・大量廃棄の仕組みを維持し、現在の豊かな生活を最大限に享受しようとする考え方。
- 問12 自然界で廃棄物が分解されるまでに必要な時間について、紙が0.25年、アルミ缶が200年であるのに対し、プラスチックボトルは約450年という極めて長い時間を要することが示されています。このような特徴を持つプラスチックボトルの国内需要が1990年代後半から増加し続けている現状について、持続可能な社会の観点から記述したものとして最も適切なものはどれですか。 (2020年 福岡県公立入試 類似)
1. 自然界で分解されにくい、需要が増加し続けることは自然環境に対して長期的な悪影響を及ぼす懸念がある。                      2. プラスチックボトルは紙と同じく短期間で分解されるため、需要の増加が海洋環境などに影響を与えることはない。                      3. リサイクル技術の停滞により、自然界での分解に要する時間がアルミ缶よりも短くなるよう改善されている。                      4. 微生物による分解が速やかに進む性質があるため、需要が増加しても土壌の改善に寄与する。